

No.76

すくらむ

2011.1.発行



福井県特別支援教育センターは、県立病院関連四機関の4階にあります。

P1

センター業務から

特別支援学校のセンター的機能について協議する、
『センター的機能推進研究協議会』の取組について
をご紹介します

P2

移行支援の取組

就学や進学をスムーズに進めるための“移行支援”
について、いくつかのケースをご紹介します

P3

特別支援教育あらかると

★発達障害のある生徒の支援の経験を通して…進路
支援のあり方について
★本年度実施の研修講座から

P4

シリーズ“学校・学級紹介”

★越前市武生第二中学校から

多数のご参加を
お待ちしております

研究発表会の御案内

日時：平成23年2月10日(木) 9:00～受付 9:30～16:00
会場：福井県立図書館 多目的ホール
☆詳しくは各学校・機関に配付の開催要項をご覧ください。

センター業務から

特別支援学校「センター的機能推進研究協議会」

各特別支援学校の特別支援教育
コーディネーターの先生方が一堂
に会し、特別支援学校が担う“セン
ター的機能”について協議してい
ます。地域の幼児・児童・生徒や、園・
小中学校の先生方を支援する教育
相談や情報提供の機能について、
国や県の情報を得たり、意見を交
換して相談のスキルアップを図っ
たりしています。



第1回	特別支援教育総合推進事業(文部科学省)・発達障害児支援推進事業(県)について、 保育カウンセラー配置事業について、各校の保育園・幼稚園への支援の現状報告
第2回	演習 相談事例検討、テーマ別協議(啓発、移行支援、発達検査結果の報告の仕方)、 「教育相談の在り方等について」福井大学教職大学院 客員教授 北野範子氏
第3回	地域支援・保育カウンセラー配置事業の現状について、演習 相談事例検討、「これからの 特別支援学校が果たす役割を考える」福井大学教職大学院 教授 松木健一氏
第4回	(予定) 各校の取組紹介、「地域における教育相談活動のポイントについて」 国立特別支援教育総合研究所 総括研究員 笹森洋樹氏

平成16年度から、各校で特別支援教育コーディネーターが指名される
ようになり、同時に、センター的機能推進研究協議会もスタートしました。
今年度は、61名の先生方が特別支援教育コーディネーターに指名されて
います。

今年度は、年間4回の協議会を行います。地域での教育相談活動に関
連して、新たに導入された「保育カウンセラー配置事業」について福井県
健康福祉部子ども家庭課担当者から説明を受けたり、地域の学校からの
相談ケースを想定した事例検討を行ったりしています。また、大学の先
生方の話を聞いたり、各校・各地区の取組についての情報を交換したり
しています。第2回・第3回にはそれぞれ30名程度の先生方が参加され、
相談の方法や内容について協議しました。

移行支援の取組

移行期の実際～保育園から小学校へ～



スムーズにスタート
できた！

初めての場所に対しての不安が強く、予定の変更も苦手で動けなくなってしまうAちゃん。入学前から行事交流が行われ、小学校に行く機会が設定されました。小学校の先生も、園の先生のかかわり方を直接見る機会がありました。そのため、連絡会では小学校の先生も具体的にイメージでき、聞きたいことがはっきりしていました。新担任だけでなく、学校全体でAちゃんを迎える準備ができ、スムーズにスタートできました。



スムーズにスタート
できなかった…

入学前に園や保護者から学校にこれまでの様子や支援を伝えてありました。しかし、新担任の先生は、「子どもを色眼鏡で見たくない」と考え、特に他児とかわらない接し方をしました。最初2・3日はよかったのですが、1週間後に登校渋りが始まりました…。

移行支援とは？

「スムーズにスタートできた」のようにできるとよいのですが、まだまだ、うまく学校生活をスタートできないケースが多いようです。

子どもたちにとって、教育環境や人的環境が大きく変わる時には、期待や喜びもありますが、大きな緊張や不安が伴います。「小1 プロブレム」や「中1 ギャップ」を未然に防ぐために、園・小、小・中学校間の連携が注目され、学校行事や教科のなかでの交流活動や教職員の交流、連絡体制の整備が進められています。特別な教育的ニーズのある子どもたちの支援については、就学・進学先に子どもへの理解と支援を伝え、子どもも保護者もスタート時におけるつまづきを未然に防止し、安心して学校生活がスタートできるためにこれまでの情報を伝え合う「移行支援」がとても大切です。

移行支援の取組例

幼稚園・保育園

小学校

中学校

高等学校

＜保育園から小学校へ＞

保護者の同意を得て、小学校の特別支援教育コーディネーターが園での様子を見ました。入学前に保護者と園・学校側の関係者、当センター所員も入って支援会議を開きました。入学式の前日に、本人と保護者が式場である体育館や教室を見学し、安心して出席できるようにしました。

移行先からの参観・観察

新担任への引き継ぎ
(校内委員会)

前担任らによる
参観・経過観察

引き継ぎ後の
ケース会

＜中学校から高等学校へ＞

希望する高等学校の体験見学会に本人と保護者が参加しました。合格発表後、中学校での支援状況をまとめた資料「移行支援シート」をもとに、保護者と中学校担任、高等学校の関係者、当センター所員で支援会議を開きました。担任と学年主任を加え、6月には、新しい環境での状況を確認する支援会議を開きました。

どんな情報があるとよいか…

- ・集団生活での様子や、社会性について
- ・パニック時の対応・予防について
- ・家庭での様子について
- ・本人のよいところや生き生きと活動できる内容について
- ・友だちとのかかわりの様子やトラブルがあった場合の支援の手立てについて
- ・その他、具体的なエピソードとそれに対してどのような支援を行ってきたのか など

園や学校・家庭での必要な支援や配慮事項、効果的な取組などの情報を共有することが大切です。子どもも支援者も安心できる状況を整えましょう。



特別支援教育 あ ら か る と

今回は、進路における支援の在り方について、日頃より様々な相談に対応されている
福井県発達障害児者支援センター スクラム福井の山口陽一さんにお話を伺いました。
また、平成22年度の研修事業より、昨今注目されている「キャリア教育」についての研修講座をご紹介します。

中学校・高校での進路に関する支援のあり方について

～発達障害のある生徒への支援の経験を通して～

福井県発達障害児者支援センター スクラム福井 山口 陽一 氏



発達障害のある方の就労支援を行ってきて、幅広い支援の必要性を感じています。

● 本人へのアプローチ

◇ 実際の就労場面を体験すること

想像力の弱い発達障害のある方は、なかなか就労のイメージを持つことが出来ず、進路の選択肢にあがってこないことがあります。実際の就労の経験が具体的なイメージにつながり、進路選択へ向けた第一歩につながっていきます。



◇ 自己の特徴の理解をすすめること

発達障害のある方は、自己の特徴・スキルと本人の望む進路がマッチしていないことがあります。自己の特徴の理解を促し、現状として足りないこと、しなければいけないことを整理していくことが大切です。支援者は否定的にならないような話の進め方などを工夫する必要があります。

● 保護者へのアプローチ

◇ 細かい情報と見通しを伝える

発達障害のある方の就労の情報や、成人期の情報は少ないのが現状です。時には間違った情報が、適切な導きを阻害することもあります。親御さんにも、詳しい情報を正しく伝え、導くことが大切です。



● 支援者に必要なこと

◇ 就労の現状、社会資源を知ること

進路指導をする上で、発達障害のある成人の方がどのような就労、社会資源を利用しているのか、これを知ることが大切です。一口に発達障害といっても、一人一人の状況は全く違います。そのため、本人の現状にあった進路指導を行う場合には、より多くの情報を知ることが大切です。

◇ 本人の状況を細かくアセスメントすること

普段の生活場面では、おとなしい発達障害の方などは特に本人の持っている困難さをみることが難しい場合があります。また、学校生活と卒業後の社会生活には大きな差があり、学校生活で問題がないからといって、社会生活に問題がないということはありません。学校生活では、少なからず自然な支援があることが多いです。支援のある環境であれば、特に問題なく学校生活を送ることが可能であったりします。そのため、発達障害の特性を細かくアセスメントすることが大切です。細かなアセスメントがあれば、将来の困難さが予想でき、適切な進路指導につながっていきます。

最後に、実際の就労支援を通し、本人の状況に合った社会資源に結び付けるまでに2～3年かかる人や、それ以上かかる人もいます。このようなことから、発達障害のある方への進路指導や支援は、新しいステージに上がったときから開始することが必要なかもしれません。

研修講座No5

「特別支援教育におけるキャリア教育」



国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 菊地一文氏を迎え、働くことを中心とした「生き方」「在り方」といった価値観を育てるという視点に立った、特別支援教育におけるキャリア教育についての講座を開催しました。

キャリア教育の4領域（人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力）に関する各発達段階での課題を明確にした『キャリア発達段階・内容表（試案）』をもとに、実践例を交えながらお話していただきました。



センターの研修講座については、記録(DVD)の貸し出しができます。一部、貸し出しできないものもありますので、当センターにお問い合わせください。

越前市武生第二中学校 友垣学級

本校の特別支援学級『友垣学級』の在籍生徒数は8名。明るく素直な生徒が多く、にぎやかな笑いの絶えないクラスです。日頃より長いスパンで成長をとらえ、一人一人の将来の自立を見据えながら個に応じた学習や活動の場を大切にしています。本学級の目標「かがやき」には、今そして将来において自分の持ち味を生かし、生き生きと自分らしく輝いて欲しいという願いがあります。そのために、特に校内や地域の人々と接することの喜びを通して、周囲の人と適切に関わることでできる力をつけていきたいと考えています。では、これまで継続的に取り組んできている活動のいくつかを紹介します。



毎学期1回、校内の先生方を招待し“友垣喫茶店”を開いています。適切なことばや表情、態度でおもてなしの心を伝える接客のあり方は

勿論、開店に至るまでの計画と準備では、買い物や調理学習、招待状やメニュー表作りなど意欲的に取り組んでいます。定番のチーズケーキやガトーショコラに加え、畑で収穫したサツマイモを使ったモンブランやロールケーキ作り、英語科の先生のご協力を得て、英語での接客にもチャレンジしてきています。校内の先生方も楽しみにして下さり、自然な交流が生徒への理解にも役立っています。



読み聞かせ

年に2回、近くの保育園へ“絵本の読み聞かせ”にも出かけています。季節や保育園児の喜びそうな内容を話し合いながら、市図書館での絵本選びも行っています。ジャンボ絵本に加え、紙芝居やパネルシアターでは、お互いに読み方や表情などの改善点を話し合い、保育園児とのふれあいを



楽しみに練習を進めています。心温まる交流を通して、地域の方々から優しさや感謝の心を学ばせていただいている活動です。また、休日に地域の図書館へ足を運ぶようになった生徒もあり、将来の余暇活用にも役立ってほしいと願っています。

学校祭

学校祭では、本校で稲刈りした黒米も使って“ワッフル屋さん”を開店しています。毎年300個近くのワッフルが30分以内で完売！販売を通して、地域の方々や子供たちとのやり取りもこの活動の魅力です。働くことの大変さと喜びを実感できる活動となっています。



受賞された皆様

(平成22年12月末現在)

全日本特別支援教育研究連盟 功労者表彰

山本 千代美氏 あわら市金津東小学校長

福井県特別支援教育研究連盟 功労者表彰

＜永年勤続30年＞

福田 恒子氏 福井県立嶺南東養護学校教諭

笹岡 まり子氏 福井県立福井養護学校教諭

武田 洋江氏 福井県立嶺南東養護学校教諭

森下 德行氏 福井県立福井養護学校教諭

＜永年勤続20年＞

勝矢 正代氏 大野市有終南小学校教諭

松村 博江氏 鯖江市吉川小学校教諭

江守奨学会教育奨励賞

亀井 由喜子氏 福井県立嶺北養護学校教諭

東 敬雄氏 福井県立清水養護学校教諭

福井県立盲学校重複授業研究部（代表 天方恵子教諭）

おめでとうございます

編集後記

今回の「すくらむ」は、今の学年・学校から次の学年・学校へのつなぎの時期に焦点を当て、移行期の支援について特集しました。

当センターでは「すくらむ」についてみなさんのご意見、ご感想をお待ちしております。

センターだより すくらむ 第76号

発行日 平成23年1月14日
発行所 福井県特別支援教育センター
所在地 〒910-0846 福井市四ツ井2丁目8-1
TEL(0776)53-6574 FAX (0776) 52-6272
E-mail info@fukuisec.jp
URL http://www.fukuisec.jp
福井県教育庁嶺南教育事務所特別支援教育課
〒917-0241 小浜市遠敷2丁目205
TEL(0770)56-1095 FAX(0770)56-1391
敦賀駐在 TEL/FAX(0770)24-0421
印刷所 ALL PRINT